

2017年3月期 決算説明会



素材で未来をカタチに。

2017年5月22日

ユニチカ株式会社

1. 2017年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質の健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2018年3月期通期業績予想

- ・2018年3月期通期業績予想
- ・営業利益変動要因分析
- ・セグメント別業績予想

補足資料

- ・中期経営計画施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

1. 2017年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質の健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2018年3月期通期業績予想

- ・2018年3月期通期業績予想
- ・営業利益変動要因分析
- ・セグメント別業績予想

補足資料

- ・中期経営計画施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

業績の概要

繊維事業の構造改革や事業ポートフォリオ改革に伴う事業譲渡・子会社の株式譲渡などが影響し、減収。

高分子事業の成長戦略の進展などにより、増益。

有利子負債の削減による支払利息の減少などにより、営業外損益はプラスに影響。

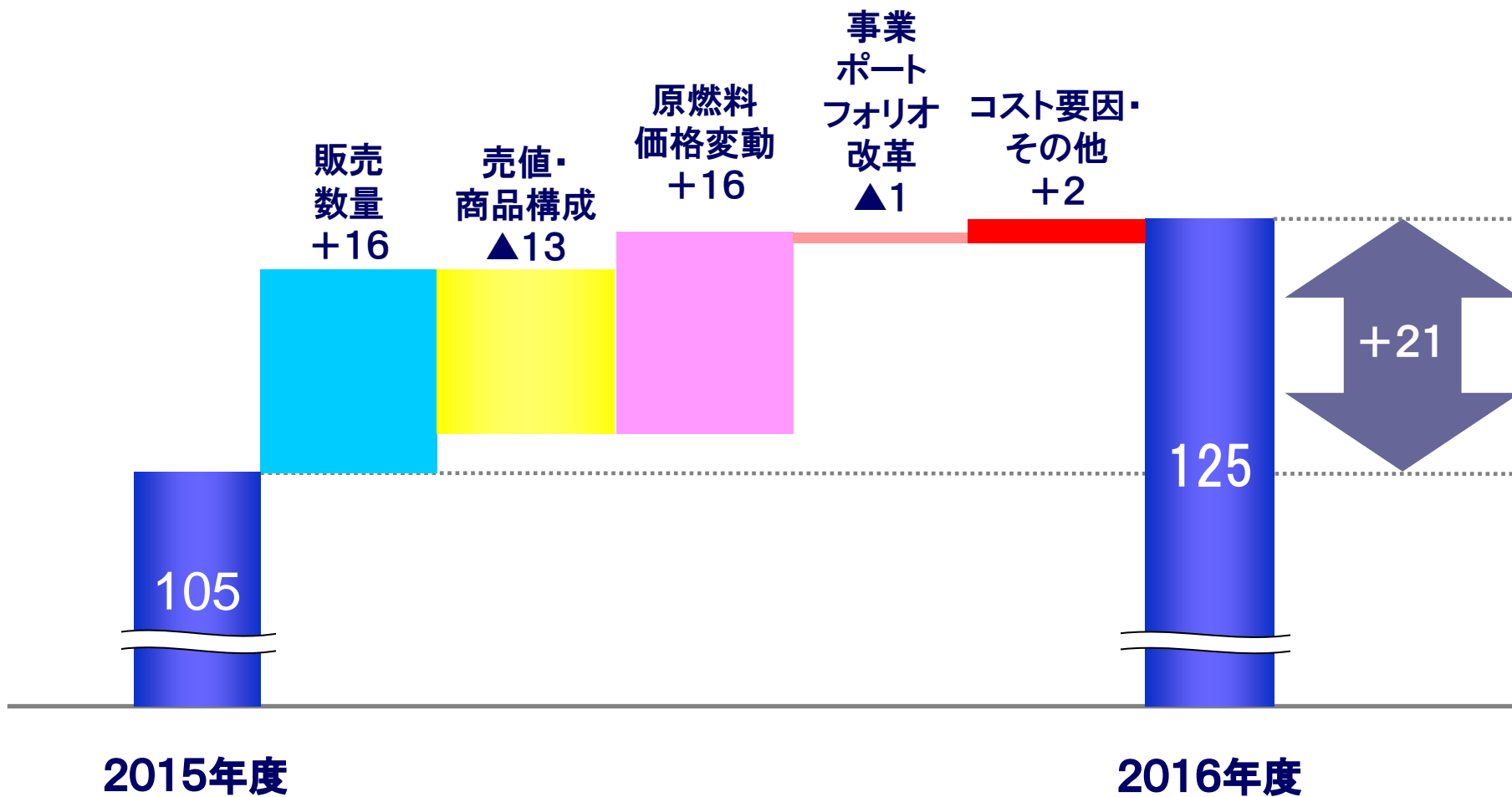
事業ポートフォリオ改革が概ね完了したことにより、固定資産売却益等が減少。

連結合計 (金額単位:億円)	2015年度 実績	2016年度 実績	前期比増減	
			金額	率
売上高	1,465	1,262	▲203	▲14%
営業利益	105	125	+21	+20%
営業利益率	7.1%	9.9%	(+2.8%)	—
営業外収益	9	10	+0	—
営業外費用	46	30	▲16	—
経常利益	68	105	+37	+54%
特別利益	19	10	▲9	—
特別損失	40	34	▲5	—
税金等調整前当期純利益	48	81	+33	+69%
親会社株主に帰属する 当期純利益	69	74	+5	+7%

減価償却費	46	43	▲3	▲6%
設備投資	60	48	▲11	▲19%

営業利益変動要因分析

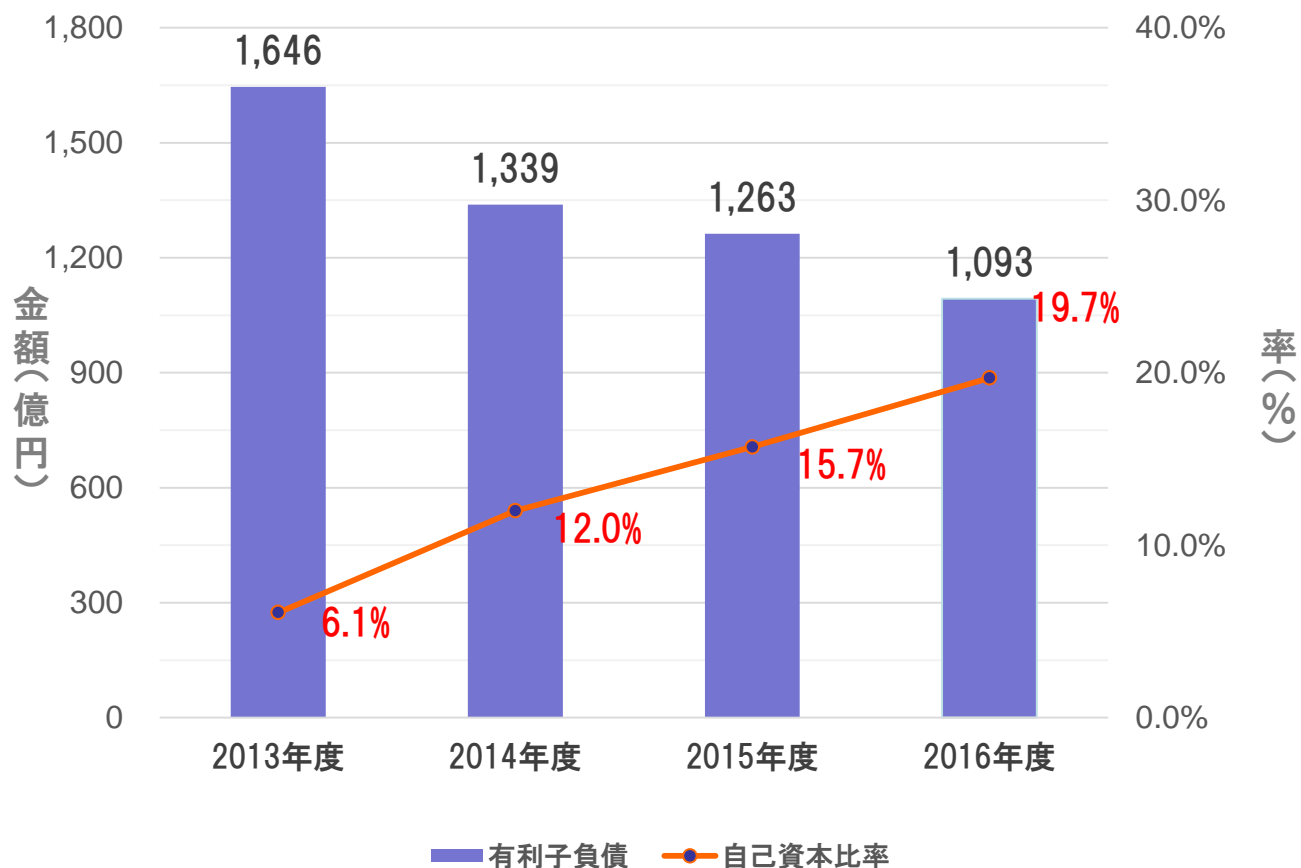
(金額単位: 億円)



資産・負債・純資産

(金額単位:億円)	2016年3月末	2017年3月末	増減
資産合計	2,200	2,119	▲81
流動資産	1,096	1,016	▲80
固定資産	1,104	1,103	▲1
負債合計	1,820	1,666	▲154
純資産合計	379	453	+73
株主資本	342	406	+64
その他の包括利益累計額	4	13	+8
非支配株主持分	33	34	+1
有利子負債	1,263	1,093	▲170
自己資本比率	15.7%	19.7%	+4.0%

有利子負債、自己資本比率の推移



財務体質の健全化

■有利子負債削減
前期末残高から170億円減少し、2017年3月末で1,093億円。中期計画に対し1年前倒しで実現。現預金を差し引いたネット有利子負債は723億円。

■自己資本比率向上
2016年度は2013年度と比較し13.6ポイント増加し19.7%。

1. 2017年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質の健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2018年3月期通期業績予想

- ・2018年3月期通期業績予想
- ・営業利益変動要因分析
- ・セグメント別業績予想

補足資料

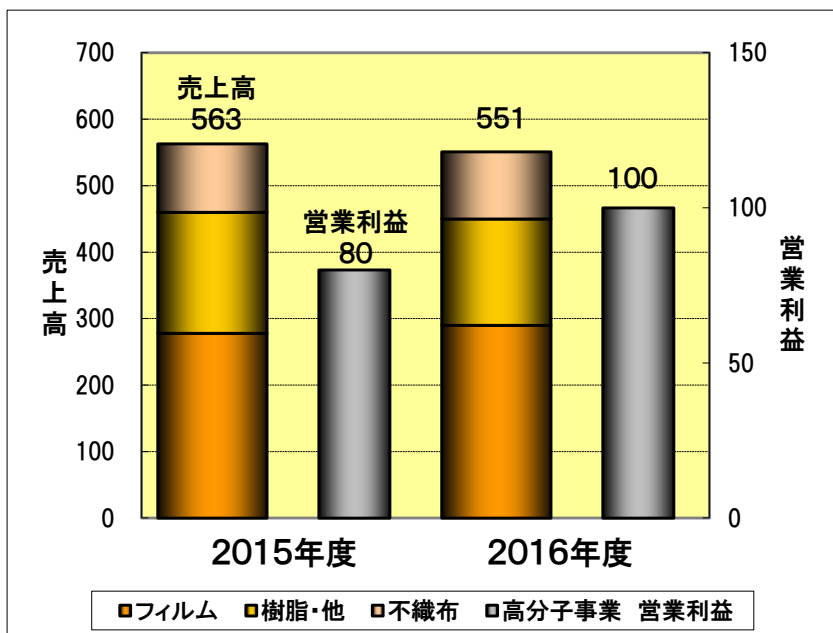
- ・中期経営計画施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

セグメント別 業績の概要

セグメント別 (金額単位:億円)	2015年度 実績	2016年度 実績	前期比	
			金額	率
売上高	1,465	1,262	▲203	▲14%
高分子事業	563	551	▲13	▲2%
機能材事業	119	121	+2	+2%
繊維事業	654	555	▲99	▲15%
その他	128	35	▲93	▲72%
営業利益	105	125	+21	+20%
高分子事業	80	100	+20	+25%
機能材事業	14	11	▲3	▲22%
繊維事業	16	19	+3	+22%
その他	▲6	▲6	+1	—

成長戦略の進展や包装フィルムの好調により、増益

(金額単位:億円)	2015年度	2016年度	増減
高分子事業 売上高	563	551	▲13
フィルム	278	290	+11
樹脂・他	182	160	▲22
不織布	103	101	▲2
高分子事業 営業利益	80	100	+20



□フィルム 〔増収・増益〕

◆包装分野

包装分野は、季節商品が好調。バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」など高付加価値品の販売も拡大。海外もアジア市況の復調とインドネシア子会社の生産能力増強により、売上・利益共に増加。

◆工業分野

情報端末機器用途など電気・電子分野で販売数量がやや減少。シリコーンフリー離型PETフィルム「ユニピール」や耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミド」など高付加価値品の販売は拡大。

□樹脂 〔減収・増益〕

◆ナイロン樹脂

ナノコンジットナイロン樹脂などの高付加価値品は堅調に推移。

◆飽和共重合ポリエステル樹脂「エリーテル」

太陽電池用途などで輸出が好調に推移。

◆ポリアリレート樹脂「Uポリマー」

情報端末機器用途などで好調に推移。

◆エステル樹脂

汎用品の販売が低調に推移。

□不織布 〔減収・増益〕

◆ポリエステルスパンボンド

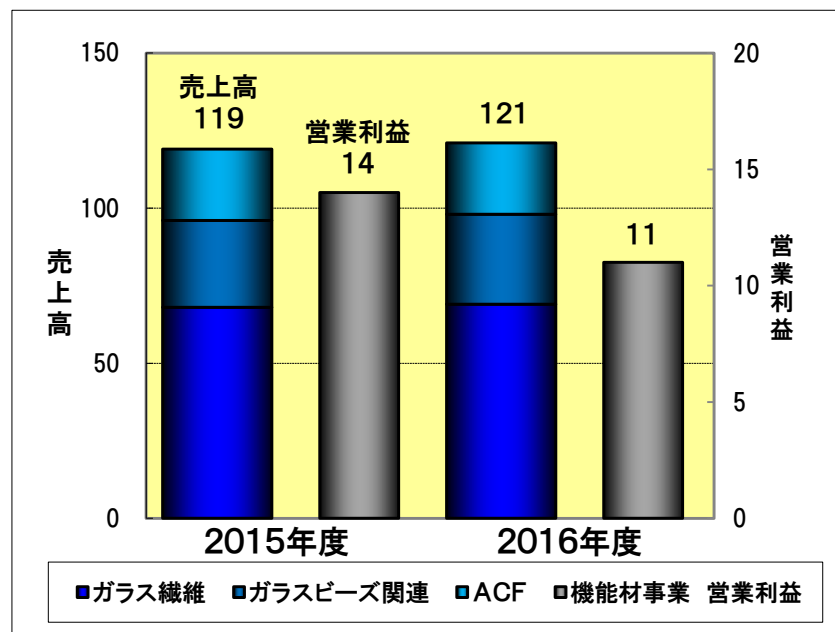
インテリア、建築材料などの産業資材用途等で販売数量を伸ばしたが、それ以外の用途では低調に推移。タイ子会社はカーペットなど産業資材用途での海外展開が堅調に推移。

◆コットンスパンレース

スキンケア用品などの生活資材用途で堅調に推移し、輸出数量も増加。

ガラス繊維は電子材料分野での需要回復に遅れ

(金額単位:億円)	2015年度	2016年度	増減
機能材事業 売上高	119	121	+2
ガラス繊維	68	69	+1
ガラスビーズ関連	28	29	+0
ACF	23	23	+1
機能材事業 営業利益	14	11	▲3



□機能材 〔増収・減益〕

◆ ガラス繊維・産業資材分野
土木用途での販売が低調に推移。建築用途や環境用途などは堅調に推移。

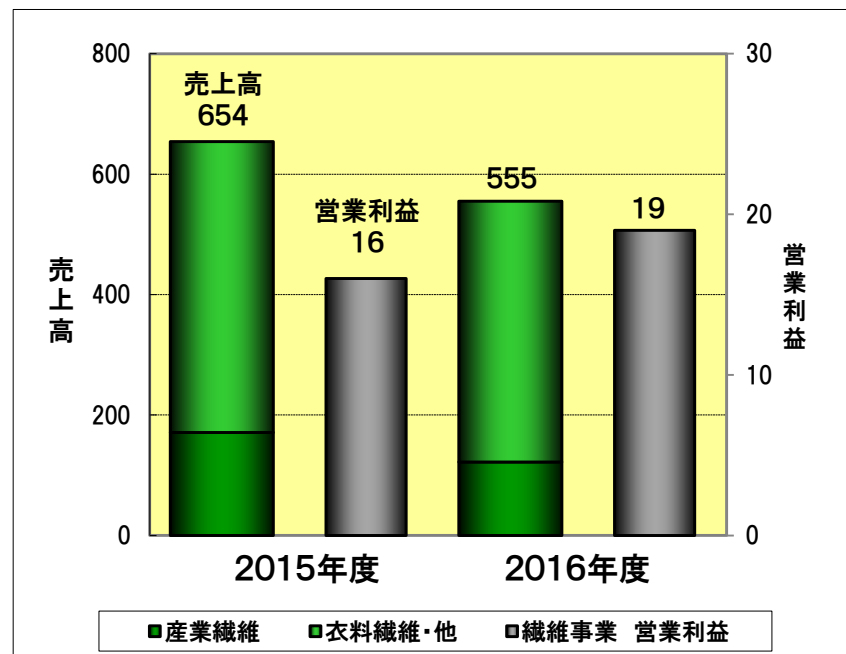
◆ ガラス繊維・電子材料分野
ICクロスは、情報端末機器用途での需要回復が遅れ、低調に推移。

◆ ガラスビーズ
反射材用途は一部ユーザーからの受注が減少。自動車部品等の工業用途や国内のロードマーキング用途は堅調に推移。商品構成の改善等の効果により増益。

◆ 活性炭繊維(ACF)
主力の浄水器用途は水栓一体型が好調であったが、全体的には需要がやや減少。自動車用VOC除去フィルターや工業用フィルター用途等は好調に推移。

産業繊維は、計画通り進捗。衣料繊維は、売上減少するも増益

(金額単位:億円)	2015年度	2016年度	増減
繊維事業 売上高	654	555	▲99
産業繊維	171	122	▲49
衣料繊維・他	483	433	▲50
繊維事業 営業利益	16	19	+3



□ 繊維 [減収・増益]

◆ 産業繊維

ポリエステル高強力糸は、複合繊維など高付加価値品への商品構成シフトが進捗。期後半からの土木・建築用途の需要回復もあり、収益は増加。

ポリエステル短繊維は、前期までに実施した構造改革による事業縮小に伴い売上が減少したが、高付加価値品の拡販を進め、計画通りの収益を確保。

◆ 衣料繊維

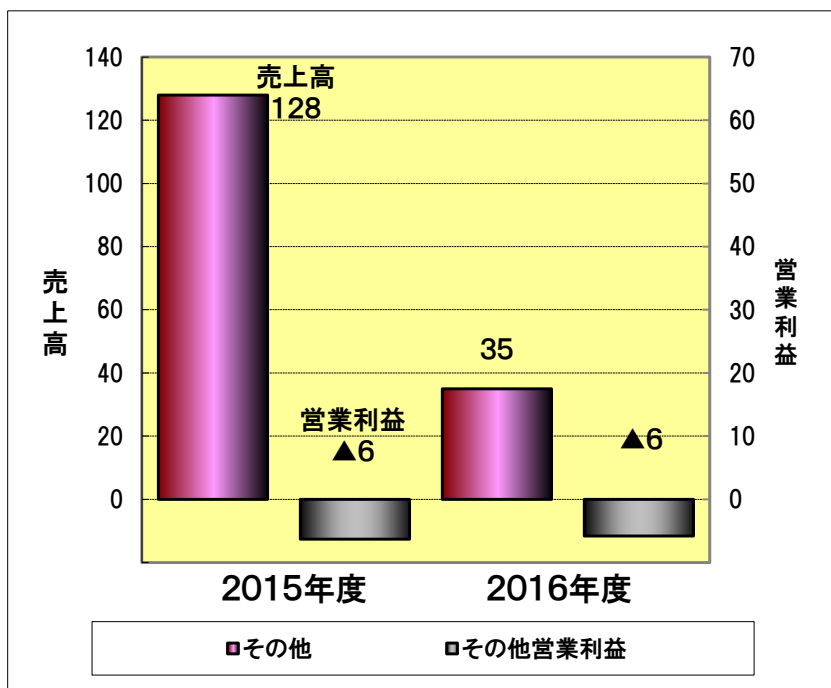
ユニフォーム分野は、販売が堅調に推移したことに加え、調達コストの低減もあり収益が改善。

レディス分野は、高発色性高反撥ポリエステル素材「ゼログ」が婦人服市場でヒット商品に。

スポーツや寝装、インナー用途での素材販売及びデニム輸出は振るわず、事業全体の売上は減少。

前年度に実行した事業ポートフォリオ改革の影響により大幅減収

(金額単位:億円)	2015年度	2016年度	増減
その他 売上高	128	35	▲93
その他 営業利益	▲6	▲6	+1



□その他
〔減収・増益〕

◆ その他事業

前年度に実行した事業ポートフォリオ改革に伴う子会社の株式譲渡・清算、事業譲渡の影響などにより、事業規模が大きく縮小。

◆ ユニチカ設備技術㈱

耐火スクリーンの不具合懸念に伴う是正工事は、97%進捗。

1. 2017年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質の健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2018年3月期通期業績予想

- ・2018年3月期通期業績予想
- ・営業利益変動要因分析
- ・セグメント別業績予想

補足資料

- ・中期経営計画施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

2018年3月期通期業績予想

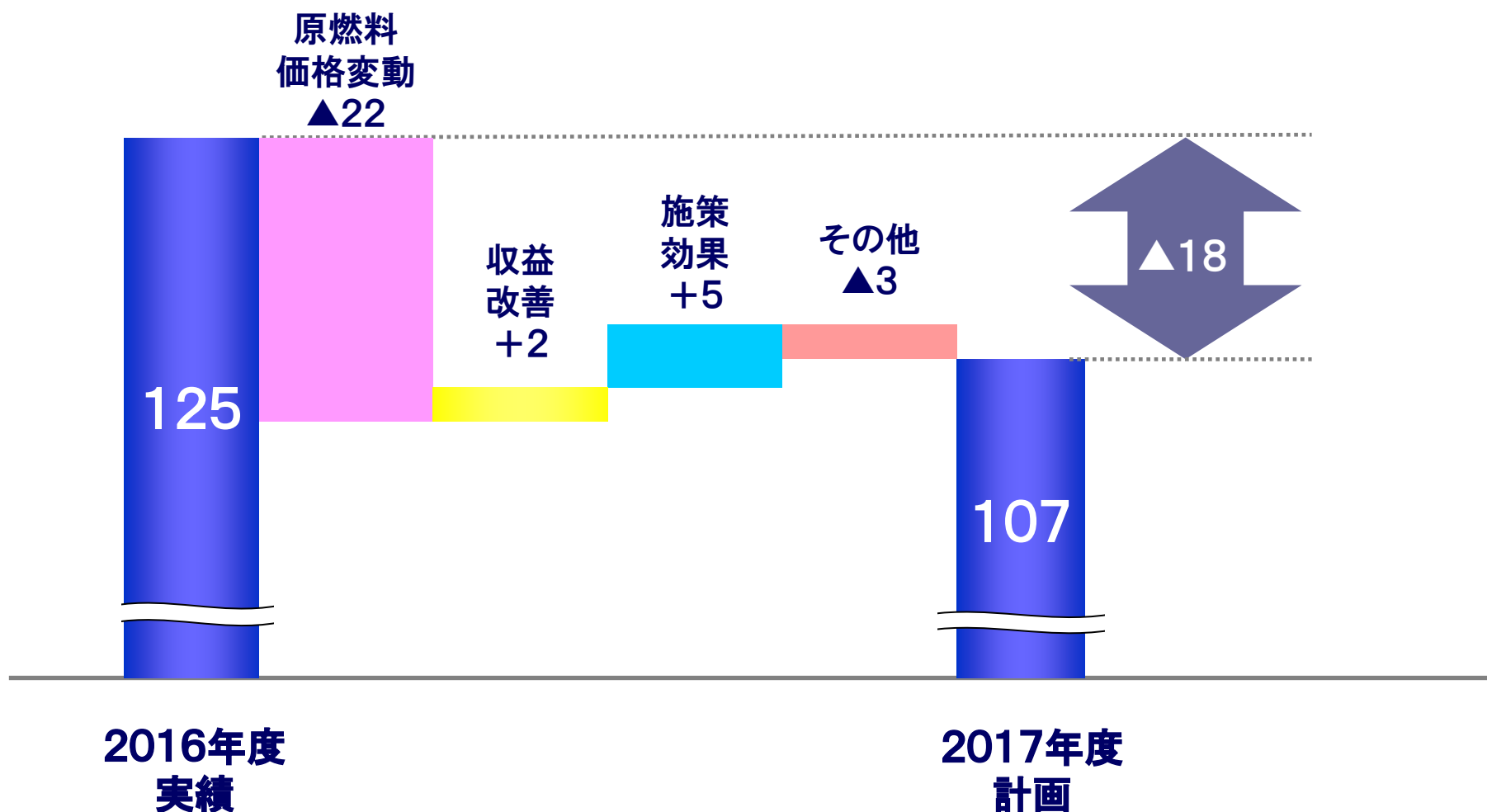
(金額単位:億円)	2017年3月期 実績	2018年3月期 予想	前期比 増減
売上高	1,262	1,310	+48
営業利益	125	107	▲18
営業利益率	9.9%	8.2%	▲1.7%
経常利益	105	73	▲32
親会社株主に帰属する 当期純利益	74	49	▲25

前提	2018年3月期
原油(\$/バレル)	55
為替(円/\$)	110

2018年3月期予想(億円)	
設備投資	59
減価償却費	51

営業利益変動要因分析

(金額単位: 億円)



セグメント別業績予想

(金額単位:億円)	売上高			営業利益			主な施策
	2017年 3月期実績	2018年 3月期予想	前期比 増減	2017年 3月期実績	2018年 3月期予想	前期比 増減	
高分子事業	551	600	+49	100	85	▲15	<p>包装分野は、国内外ともに「エンブレムHG」などバリアフィルムの拡販に注力。工業分野は、「ユニアミド」や「ユニピール」などの高機能フィルムの採用拡大を推進。ナイロン樹脂は、ナノコンポジットナイロンなど特殊コンパウンドグレードの海外拡販を強化。機能性樹脂は、「アローベース」「Uポリマー」など当社独自素材の採用拡大。</p> <p>不織布は、タスコのポリエステルスパンボンド機台増設を梃子に、カーペットや自動車部品用途で拡販。</p>
機能材事業	121	125	+4	11	12	+1	<p>ガラス繊維は、建築用途での拡販強化、各分野のトップ企業との協業による商品開発を加速。</p> <p>活性炭繊維は、水栓一体型を中心とした浄水器用途の拡販と、これまでの中国主体から欧米に軸足を移し新規顧客を獲得。</p>
繊維事業	555	560	+5	19	15	▲4	<p>産業繊維は、ポリエステル共重合技術などを活かした高付加価値品の開発・拡販を加速。</p> <p>衣料繊維は、原繊開発への注力と共に、海外現地法人の機能充実によるグローバル商流の構築。</p>
その他	35	25	▲10	▲6	▲5	+1	
合計	1,262	1,310	+48	125	107	▲18	

1. 2017年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質の健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2018年3月期通期業績予想

- ・2018年3月期通期業績予想
- ・営業利益変動要因分析
- ・セグメント別業績予想

補足資料

- ・中期経営計画施策の進捗(成長戦略)
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

成長戦略

	施策		進捗状況(前期比)	評価
フィルム	エンブレムアジア新機台製品の国内展開及び東南アジア市場での拡大		アジア市況の回復と生産能力の増強にともない、販売量は1.5倍に拡大。	○
	新バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」の展開		ボイル・レトルト食品向けだけでなく、惣菜メーカー向けにも採用が拡大しており、販売量は2.1倍に拡大。	○
	耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミド」の拡大		モバイル機器向けを中心に採用拡大しており、販売量は2.0倍に拡大。	○
	工業用PETフィルムの拡販		シリコーンフリー離型PETフィルム「ユニピール」などの高付加価値アイテムを拡販中。 販売量は1.2倍に拡大。	○

成長戦略

	施策		進捗状況(前期比)	評価
樹脂	「アローベース」の拡大		国内メーカー向け太陽電池用途の需要が減少。	△
	「ゼコット」の拡販		電気・電子機器用途や一部の自動車部品用途で実績化し拡大基調。	△
	高機能性PETの拡販		「ユニレート」導電グレードなど高付加価値アイテムを拡販中。 販売量は1.1倍に拡大。	○
不織布	タスコの新機台増設に向けてのアジアグローバルシェア拡大		新型3号機の運転を開始。商業生産に備えての用途開発・顧客開拓も進んでいる。	(○)

※シェアは当社推定

	製品	国内 シェア	主な用途	当社の強み
高分子	ナイロンフィルム	40% (1位)	食品包装用 (世界シェア 約15%)	同時二軸延伸技術 商品のバリエーション
	ポリエステルспанボンド	35% (1位)	自動車内装、建築、土木資材 農業資材、衛生材料、生活資材	複合繊維化技術
	コットンспанレース	60% (1位)	衛生材料、生活資材、医療資材	天然素材のシート化技術
	ポリアリレート樹脂	当社 独自	自動車部品、電気・精密機器部材	耐熱性・透明性
機能材	ガラスクロス(産業用)	20% (2位)	フィルター素材、FRP用、建築 土木資材	原織・製織技術
	ガラスビーズ	40% (1位)	各種反射材、工業用ビーズ	商品のバリエーション

その他(売上高構成比 3%)

高分子事業(売上高構成比 44%)

- ◆フィルム ナイロンフィルム
ポリエステルフィルム
- ◆樹脂 ナイロン樹脂
ポリエステル樹脂
ポリアリレート樹脂
- ◆不織布 ポリエステルスパンボンド
スパンレース



繊維事業(売上高構成比 44%)

- ◆産業繊維 ポリエステル高強力糸
ポリエステル短繊維
ビニロン繊維 等
- ◆衣料繊維 ユニフォーム
一般・婦人衣料素材
スポーツ衣料素材 等

機能材事業(売上高構成比 10%)

- ◆ガラス繊維
- ◆ガラスビーズ
- ◆活性炭繊維

ご注意

本資料中の予想は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいております。実際の業績は、今後の種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。